



八王子盲学校だより



令和6年7月発行 第4号
東京都立八王子盲学校長 田島 由紀子

マルハナバチはなぜ飛べるのか

校長 田島 由紀子

八王子盲学校のマスコットといえば、蜂の「ハッチ」と牛の「モーちゃん」ですが、皆さんは、マルハナバチという蜂を知っていますか。蜂というと、刺されるかも、という怖さが先にたちますが、このマルハナバチは、ずんぐりとまん丸い体にちっちゃな羽がついていて、おまけに体はふわふわとぬいぐるみのような毛が生えており、本校の「ハッチ」に負けず劣らずの愛らしさなのです。こんな可愛らしいなりをしながら、マルハナバチの身体能力はすごく、なんと地球上でもっとも高いエベレストの山頂より、高く飛ぶことができるそうです。長い間、体に対してあまりにも小さな羽しかついていないマルハナバチがどうして飛ぶことができるのか、当時の航空力学では説明できない謎とされてきました。謎の解けない航空技術者が「人間の考えた理屈では飛べないはずなのに飛んでいるのは、マルハナバチはそんな人間の理屈なんて知らず、自分は飛べると信じているからだ」と言ったとされることから、マルハナバチは、不可能を可能にする象徴となりました。

少し前の話になりますが、去る5月28日に校内弁論大会がありました。中学部と高等部普通科から選ばれた6人の弁士たちが、それぞれ自分の興味があること、夢や希望を聴衆に伝えようと、話の内容や話し方など工夫を凝らして精一杯語ってくれた姿に胸が熱くなりました。どの発表も、制限時間をしっかり守りつつ、マイクを使わず体育館にいる全員に伝わるような大きなはっきりとした声で、自らの思いや考えを自分の言葉で伝えることができていました。人前で発表することは、とても緊張し、勇気のいることだと思います。ましてや、体育館のような広い場所で、大勢の人が集まる中で、自身の準備してきたことを出し切ることができたのはすごいことです。マルハナバチスピリットのように、自分を信じ、弁論をなし遂げることができた6人に、あらためて拍手を送りたいと思います。優勝者は今月、7月5日に行われる関東甲信越大会へと出場することになります。今年は我が八王子盲学校が会場です。全力で応援しましょう！

また、7月13日には、六光祭が予定されています。2学期からは仮校舎に移転するため、現校舎で最後の開催となる六光祭です。思いの丈を余すことなく発表できるよう、頑張ってください。六光祭では、謎に包まれていた はちもうザウルス が登場する！と聞いており、今からとても楽しみです。そして、8月には、フロアバレーの全国大会が、この八王子で開かれ、本校からも出場します。こちら、マルハナバチスピリットを発揮し、自分を信じて活躍してくれることと思います。

さて、長らく解明されていなかったマルハナバチが飛べる理論については、科学や研究が進むことにより、近年ようやく謎が解かれています。興味がある人はぜひ、調べてみてください。



各部科の1学期の取組

＜幼小学部＞

主幹教諭 深澤 陽子

4月に入学・進級した幼児・児童のみなさんも新しい生活に慣れ、落ち着いて過ごす日々が続いています。5月には幼・小学部共に春の遠足を実施し、友達と一緒に遊んだりお弁当を食べたり、楽しい時間を過ごしました。また6年生は八王子 J:COM ホールで劇団四季のミュージカルを観劇し、演劇表現に触れて社会体験を広げました。今年度は体育館の解体に伴い7月に文化祭を行うため、今は発表に向け熱心に取り組んでいます。子供たちは50年余りの校舎の歴史に思いをはせながら、日々完成に近づいている仮校舎にも期待が膨らみ、楽しみにしています。

＜中学部＞

主幹教諭 栗本 みゆき

「積極的に」、「自分から」。4月当初、心掛けてほしいと生徒達に送った言葉です。どんなことでも、自分から行動してみようと伝えました。「自分からは苦手だ」と話す生徒もいましたが、生徒一人一人が様々な取組を通じて力を発揮した1学期でした。主な行事の様子をご紹介します。

1・2年生は1泊で神奈川・山梨方面に移動教室に行きました。5月末、自然に囲まれた中で、バーベキュー、キャンプファイヤ、バウムクーヘンやピザづくりに自然散策と大いに楽しみました。自分の考えを人前で発表できる態度や他の人の話を聞き、ともに考えられる力を身に付けることを目的に、中学部・普通科生徒対象の校内弁論大会が行われ、中学部は5名が参加し、自分の好きな教科や自分の住んでいる町、自分の進路をテーマに発表しました。人前での発表に初めは消極的だった生徒も、本番では皆緊張しつつも堂々と自分の考えを主張し、立派でした。

＜高等部普通科＞

主任教諭 川嶋 拓

6月5日～7日まで3年生5名で箱根・東伊豆方面へ修学旅行に行ってきました。春からの事前学習では、見学先や地域の歴史、特色、名産品などを調べ、タブレット端末で共有して“旅行ガイド”を自作しました。行く先々で体験したり、自然の迫力を体感して、想像を超えるものに触れた瞬間の表情がとても印象的でした。最終日には、思い出と共にお土産も増え、無事に修学旅行を終えることができました。

7月にある六光祭に向けて、総合的な探求の時間を中心に発表準備を行っています。普段はクラスや小グループでの授業が主ですが、行事に向けて科全体として、いつもと違う生徒同士、お互いに配慮しあう関りがとても良い雰囲気を出しています。発表当日は、練習の成果を発揮し、一人一人のよさが現れ、大成功に終わればと思います。

＜高等部理療科＞

主幹教諭 伊藤 洋介

これまでの間、定期試験や施術所の見学等が行われ、忙しくも充実した毎日を過ごしています。3年生は患者実習が6月から開始されました。始めは緊張した様子でしたが、少しずつ患者様に寄り沿った施術となってきています。患者様からの励ましの言葉が、生徒のやる気を引き出す最良の手段と感じています。1・2年生は基礎的な学習に励んでいます。たくさんの覚えるべき用語や手技を、自分なりの方法で成果を積み上げています。職員も互いに授業見学し、情報共有を行う等、授業改善を行っています。2学期も引き続き、生徒の主体的な学びを引き出せるよう進めていきます。

ピックアップ ① 今の校舎最後の「六光祭」

令和6年7月13日(土)9時から12時30分まで六光祭(文化祭)を行います。現在の校舎で行える最後の六光祭ということで、校舎への感謝をテーマに、広く地域の皆様にも御参観いただきたいと考えています。各学部のステージ発表、作品展示、模擬臨床実習等を予定しています。ぜひ、お楽しみください。

ピックアップ ② この夏、八盲はお引っ越し

校庭に建設していた仮設校舎は完成を迎え、この夏八王子盲学校は仮設校舎へと移転します。思い出の詰まった校舎を離れることは寂しいことではありますが、心機一転新しい環境を楽しみにしていきましょう。



仮設校舎 屋上